



2012年5月30日 発行

奈良教育大学 大学院
教育学研究科 教職開発専攻
〒630-8528 奈良市高畑町
TEL & FAX 0742-27-9354

<http://www.nara-edu.ac.jp>

発行 奈良教育大学 教職大学院広報係

目次

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.1 | (3) 新たなスタート・・・・・・・・・・P.3 |
| 2. 2012年度教職大学院入学式・・・・・・・・P.2 | (4) 学校実践Iを終えて・・・・・・・・P.4 |
| 3. 新入院生の声 | 4. 李さんが記念講演・・・・・・・・P.4 |
| (1) つながり大切にしたい・・・・・・・・P.2 | 5. 入学試験案内・・・・・・・・・・P.4 |
| (2) 「なつかしい！」・・・・・・・・P.3 | 6. あとがき・・・・・・・・・・P.4 |

1 ご挨拶

子どもたちに21世紀を生き抜く力を付けるために

奈良教育大学 教職大学院
院長 吉田 誠

この度、奈良教育大学教職大学院長に選出されました吉田です。もとより浅知短才ではありますが、教職大学院の舵取りを任されましたので、元院長の安藤教授、前院長の松川教授が築かれてこられた教職大学院の礎を更に発展させるべく頑張りたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年度が始まり、教職大学院にも4月5日の入学式で20名の新しい仲間が加わりました。教職大学院としては5回目の入学式となり、今年度で入学者総数が100名を超えたことは、大変喜ばしいことと思っています。

さて、小・中学校では、新学習指導要領が完全実施されたことを受け、知識基盤社会の進展とグローバル化を背景に、子どもたちに21世紀を生き抜く力を身に付けさせることが重要な課題となっています。そのため教育現場では、デジタルコンテンツの積極的な活用、子ども同士が教え合い学び合う協働的な学びの構築、教員間の情報共有によるきめ細かな指導体制の構築等、これまでとはかなり異なった学習環境や指導体制を整えることが必要とされます。そのため、デジタルネイティブと呼ばれている最近の大学生や院生が、教職に就くとすぐ教育現場で即戦力として期待されるのは当然のことと言えます。このような状況から、教職大学院生は、在学中に自分の研究課題を追究していくことは勿論ですが、いろいろな情報機器を総合的に使用できる力を身に付けておくことが大切だと言えます。



また、教職大学院は平成23年度に教員養成評価機構が行った認証評価を受け、その結果として『規準の内容を満たしている』と判断されました。特に設立以来掲げてきた教職大学院の特色である「4つの教師像(平成23年度から『3つの教師像に変更』)に基づくカリキュラム・フレームワーク及びアセスメントガイドブック」「学生集団と大学院教員集団との協働的な学びの実現による各科目の中での理論と実践の融合」「電子ポートフォリオ活用による指導と評価の一体化」等が認証評価のポイントとして示されました。私たち教員一同は、この評価に満足することなく、教職大学院の院生の学びを更に充実させるために現行のカリキュラムを改訂する準備を進めています。

最後に今年度の教員異動ですが、4月1日付で、教職大学院設立にご尽力いただいた安藤輝次教授が関西大学文学部へご転出、宮下俊也准教授が教授に昇任されました。

2 2012年度 教職大学院入学式

4月5日、2012年度入学式が行われました。本学教職大学院は、20名の新入院生を迎え、新たなスタートをきりました。本学教職大学院開設5年目にあたり、一層充実した体制の下、院生一同、各々の目標を設定し、大学院での学びを更に充実させ、ともに成長していく決意を新たにしています。



3 新入院生の声

(1) つながりを大切にしたい

現職院生 片尾 克年

4月から奈良教育大学教職大学院に入学し、今までの教員としての実践を今一度見つめなおす機会を得た。

高等学校では、おもに担任として過ごしてきたこともあり、日々の教育活動（実践）に精一杯であったように思う。そのような中で、ふと目にとまった本の中の、ある企業の経営理念やその考え方に共感を覚えた。「自社の経営理念を、社員全員が暗唱できる組織にしたい。なぜなら、経営理念こそが、その法人の存在理由だと思うから・・・」というものであった。昨年度は高校3年生の担任であり、受験勉強で、クラスのまとまりが得られにくい状況であったが、この理念の考え方を取り入れたクラス経営をしてみることにした。些細なことだが、生徒が順番に記入する学級日誌の毎日の感想欄に、「神様にフェイントをかける」、「クラスの誰かの頑張りを褒めてあげよう」、夢を語ろう」とテーマを決め、書かせた。「〇〇さんに黒板を消してもらった」、「配られたプリントを後ろに渡すとき、いつも〇〇さんは『ありがとう』と言ってくれる」といった記入から、子どもどうしのつながりが見えてきた。このような日々の実践を通し、子どもたちから多くのことを教えてもらった。

さて、この教職大学院には、ストレート院生や社会人院生、そして現職教員院生と経歴や年代の違う者が集まり、専門性と実践力を兼ね備えた教員になろうと各自がめざしている。私たち院生が、ふだん生活する院生室は、まさに職員室である。教育の理論を学んだあと、実際にどう実践するかについて、院生どうしがお互いの知識を出し合い、共有しようとしている。院生室でのつながりを大切にして、「理論と実践の往還」を実現していきたい。



(2) 「なつかしい！」

現職院生 杉崎 栄一

「なつかしい！」 私の出身大学ということもあるかもしれませんが、本学教職大学院の院生室に入ったときの第一印象がこれです。初めて出会った先生方、先輩方そして同級生でしたが、まるで旧知のようなあたたかさが感じられました。

私は、小学校の現場で17年間教職を経験しており、主な担当は5・6年生、生徒指導でした。学級経営や学習指導の手腕もある程度身につけ、保護者との関係も良好な関係を持つことができ、特別大きな問題が生じたということも無い教師生活を送ってきましたが、ここ数年、何か手詰まり感を感じていました。ただ、それが何に起因しているのかがわからず、悶々とした日々を過ごしていたある日、職場の管理職にこの教職大学院を紹介されました。「そこに行けば、なにかが見つかるとは思えない。」と思った私は、二つ返事で入学を希望する旨を告げました。そして本年4月に教職大学院に入学しました。



そこにあっただけで、自分の実践を裏付けることができる理論と最新の教育手法、そして教師を夢見る希望にあふれた若者達でした。今まで、様々な実践を積んできたと言っても、まだまだ経験則によるものが多かったのですが、授業やゼミで学ぶ中で自分の実践は、理論とこう結びつくのだということを実感しています。理論と実践が結びつくことによって、また、自分の実践を他の人にも上手く伝えることができ、広めていくことができます。その上、これから教師を目指し、どんなことでも吸収していこうという学生達がいる、すぐにメンターリングを求められる環境があります。教員が成長していけるすべてのものが揃っているといっても過言ではありません。「理論と実践の往還」これを肌で感じながら、本物の学びをしていけることを心からうれしく思っています。

(3) 新たなスタート

社会人院生（4年コース） 陶山 博考

4月5日、奈良教育大学教職大学院の入学式が挙行されました。

私事ではありますが、再び学校の門をくぐることになるとは思ってもいませんでした。私は大学卒業後に一度、社会に出て働いています。しかし、職場での体験をきっかけに、教員としての仕事に興味を抱くようになり、本学教職大学院を受験しました。

家族をはじめ、私をとりまく方々の理解により教職大学院で学ぶというこの上もない機会を得、新しいスタートを切ることができました。



何よりも、多くの方の支えがあったからこそ今の自分があるということを噛みしめ、感謝の気持ちを忘れず全力で取り組む決意を新たにしています。

教職大学院に入学したからには、教員に必要な知識や能力を磨くことは、当然であり、努めなければならないことだと考えています。しかし私は、それだけにとどまることなく、教職大学院での出会いも大切にしたいと考えています。幸いなことに大学院には、頼りがいのある現職教員の方や先輩、教員になるという同じ目標を持った仲間がいます。人との繋がりを大切にするとともに、人間力を磨く機会として、人との関わりを積極的に求めていきたいと思えます。また、経験豊富な先生方のおられる恵まれた環境を十分に活かしていきたいと思えます。

教職大学院という看板を背負っているという意識を持ち、よりよい教員になるための努力をし続けることが、先生方の想いに応えるということに繋がると考えています。

もう既にスタートは切りました。私たちにとっての当面の目標の一つに教員採用試験があります。しかしそれは、通過点の一つに過ぎません。ゴールはまだまだその先にあります。

本学教職大学院で、より高い実践力を身につけ、自信をもって教壇に立ちたいです。正直、不安で胸がいっぱいですが、立ち止まることなく、突き進みたいと思えます。

(4) 学校実践 I を終えて

ストレート院生 土海 稚奈

本学教職大学院に入学し、5月に入って間もなく、学校実践 I が始まりました。私は、2週間、生駒市立鹿ノ台小学校でお世話になりました。この期間は、校外学習やスポーツテスト等多くの学校行事が実施されている多忙な時期でしたが、私たち実習生を受け入れてくださり、心より感謝しております。



中学校の教員を目指す私にとって、小学校の実践は初めての経験でした。先生方のご配慮で、ほぼ全学年の授業観察をさせていただきました。様々な学年の授業を観察する中で、教科・領域の学びの系統性や、学年による子ども達の反応や行動の違いを実感しました。そして、小学校と中学校の学びの繋がりを意識すると同時に、特に中学校1年生では小学校との学習の繋がりを考えながら、教材研究をすることの大切さに改めて気づかされました。また、先生方の子どもたちに対する指示のきめ細かさや、子どもたちのさまざまな発言に対し実に適切な対応をされていたことが印象的でした。

実践では、研究授業の機会も与えていただきました。私は、研究授業においては、学習内容に興味関心を持たせることに留意し、子ども自身が活動する場面をできるだけ多く取り入れようと思いました。授業後の反省点として、授業における「山場」の設定が不明瞭であったこと、説明と指示等のメリハリが不十分であったこと等を先生方から指導していただきました。学校実践 I で明らかになった私自身の課題の克服に向け、小学校での学びを整理し、学校実践 II に臨みたいと思っています。

4 本学教職大学院生 李さんが記念講演

「出会いと絆」

ストレート院生 (2011 年度入学) 李 洋

本学教職大学院生の李 洋さんが、この4月28日、宇治市国際親善協会主催の国際交流講演会において、「出会いと絆」と題して講演しました。李さんは1986年中国吉林省に生まれ、家族とともに'96年に日本に移住しました。言葉の壁などがあり家族は4年後に帰国しましたが、李さんは日本で生活することを決断し、'06年に京都産業大学に入学しました。その後、日本で小学校の教員になることを決意し、'11年に本学教職大学院に入学しました。講演では日本と中国のマナーの違い等をわかりやすく説明するなどして、異文化理解の大切さを語りました。また国際的なボランティア活動を通じて、人と人とのつながりによって助けられた経験や自分の成長について語り、参加者からは「共感するところが多かった」との感想が寄せられていました。



5 入学試験案内 奈良教育大学 教育学研究科 専門職学位課程 教職開発専攻(教職大学院)

一次試験

出願期間:平成24年8月6日(月)~10日(金)

試験日:平成24年9月2日(日)

合格発表:平成24年9月13日(木)

二次試験

出願期間:平成25年1月7日(月)~11日(金)

試験日:平成25年2月10日(日)

合格発表:平成25年2月14日(木)

入学説明会を開催します。

日時:平成24年6月30日(土)

時間:13時30分~15時30分

場所:奈良教育大学 本部棟2階大会議室

入試説明会(教職大学院)に関する問い合わせ(参加申込み含む)は、下記メールでお願いします。

nyuusi@nara-edu.ac.jp

6 あとがき

新年度が始まり、本学教職大学院は吉田 新院長のもと、新たなスタートを切りました。本年度は開設から5年目という節目の年でもあります。院生及び教職員が更に一丸となり、より一層の充実発展に努めてまいります。今後とも変わらぬご支援ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。(文責小谷)